

横浜市立 池上小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・算数・数学の接続期の指導に重点を置き指導を行う。	乗り入れ授業により、子どもは中学入学前に身につける力や進学後の学習の進め方が分かった。基礎的な学力を身につけさせるために、プレテストや日々の学習を通して、つまづきを発見し、解消するための手立てを明確に示しながら研究を進めた。	A B C D
2 豊かな 心	・年3回のスマイル給食と月1回のスマイル集会を軸に、縦割り活動の充実を図る。	たてわり活動を通して、子どもたちは自他の理解を深め、生き生きと活動し異年齢相互のかわり合いを深めていくことができた。高学年は進行や役割を担当することを通してリーダー性が高まってきた。	A B C D
3 健やかな 体	・体力アップ週間を年3回実施し、体力の向上を図る。	期間中は多くの児童が楽しみながら運動に取り組むことができた。次年度は年間を通して継続的に運動に取り組めるような機会を設定する。	A B C D
4 特別支援 教育	・教育的ニーズに応じた個別の教育支援計画や指導計画を作成し、個々の支援に生かす。	特別な教育的支援の必要な児童について、個別の教育計画を作成して、個々の支援に生かすことができた。また、それぞれの児童の状況や対応についても共通理解した。	A B C D
5 児童生徒 指導	・自分の大切さと共に、他の人の大切さを認めることを実践できるようにする。挨拶を通して、信頼関係を築く。	池上スタンダードを基に、職員で共通した指導を図った。今後も小中ブロックで連携し指導の徹底を図る。共感や挨拶などの言葉かけを通して、自己肯定感の育成をしていく。	A B C D
6 キャリア 教育	・学ぶこと、働くことの意義を知り、自己肯定感を高め、コミュニケーション能力を身につける取組を実践していく。	研修会をもち、キャリア教育についての知識を深めることができた。また、菅田中ブロックの児童生徒の実態を踏まえて視点を絞り、全体計画および年間指導計画を作成した。来年度はこれを基に、キャリア教育の視点をもって教科領域指導に当たっていく。	A B C D
7 地域連携	・教育活動を公開し、学校教育目標実現のために、保護者・地域の教育力を生かす。	学習活動、図書や芝生の整備、登下校時の見回り等に、保護者・地域の力を生かし、協力・連携することができた。	A B C D
8 人材育成 組織運営	・自主的な研究・研修を行い、授業やクラス運営を円滑に進めることができるようにする。	進んで研修内容を企画、運営することができた。その研修内容を実際の授業運営、児童指導等にいかすことができた。	A B C D
小中一貫 教育推進ブロック内相互評価結果	授業力向上部会では、研究授業の参観を通して、ほとんどの教科で、児童が落ち着いて学習している。つまづきを発見し、解消するための教師の手立てが有効であった。学習の目当てや課題がわかりやすい、との評価を受けた。児童指導の面では、児童が身だしなみを整え、校内に挨拶のあふれる雰囲気があったと評価された。今後、評価の視点を一貫ブロックテーマを基に明確にし、参観時間内に見取ることでできる質問項目を精選する必要がある。		
学校関係者 評価結果	本校児童はあいさつができ、落ち着いた雰囲気の中で学習できているとの評価を受けた。ただ、給食などで学級によるおもてなしの違いや、教室環境の工夫に差があることが指摘された。校内で共通理解を図り、よさを各教諭のもつ工夫や実践を全校に広げ、よりよい教育活動に高めていく必要を感じた。		
評価結果に対する 学校の見解	・児童の自己教育力を育成し、その可能性を引き出す多様な学習形態を展開するための授業力をより一層向上させる必要がある。 ・小中一貫ブロックでの相互評価等で明らかになってきた本校のよさと課題を教職員全体で共通理解し、改善の視点を共有できるような学校運営組織を構築する。		
学校経営 中期目標 達成状況	・ブロックの共通課題、本校の課題に対して職員と具体的な取組を共通理解し、教育活動を推進することができた。次年度は、より一層の学力の向上をめざして、学習スタンダードづくりをブロックで検討すると共に、キャリア教育の充実を図り、子どもたちの学習意欲の向上につなげていく。		

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・算数・数学の接続期の指導と、児童一人一人の見取りに重点を置き、より実態に応じた指導を行う。	既習事項を掲示し、それを生かしながら、授業を進めるスタイルが定着してきた。	A B C D
2 豊かな 心	・年3回のスマイル給食と月1回のスマイル集会を軸にした縦割り活動を通して、よりよい人間関係づくりを図る。	縦割り活動は、よりよい人間関係づくりに効果が見られた。自己肯定感を高めるためにも主体的に高学年が進められるとよい。	A B C D
3 健やかな 体	・年間を通して水曜日の中休みを積極的に外遊びに取り組み時間と設定し、子どもも教職員も継続的に運動に取り組めるようにする。	運動には取り組んだが、もっと声を掛け合って、外遊びを楽しめるようにする必要があった。	A B C D
4 特別支援 教育	・特別な教育的支援の必要な児童について、教育的ニーズに応じた個別の教育支援計画や指導計画を作成し、個々の支援に生かす。	個別の学習計画を作成し、計画的、継続的に指導ができた。定期的に指導の在り方を振り返りができるとよい。	A B C D
5 児童生徒 指導	・あらゆる場面において自己肯定感を高めるようにし、自分の大切さを認め、他の人の大切さを認められるようにする。挨拶運動を通して、信頼関係を深めていく。	挨拶は身に付きつつあるが、より気持ちよく挨拶ができるように挨拶を日常化させる取り組みが必要である。	A B C D
6 キャリア 教育	・児童が、学ぶこと、働くことの意義を知り、自己肯定感やコミュニケーション能力を高めていくために、キャリア教育の視点をもって教科領域指導に当たり、年間指導計画に沿って実践していく。	出前授業や各教科領域縦割り活動でキャリアの視点をもった取り組みができた。	A B C D
7 地域連携	・教育活動を保護者・地域に公開し、よりよい学校生活実現のために、保護者・地域の教育力を生かす。	各教科の中で、地域や保護者の力を得て教育活動を行うことができた。単発的な取り組みが見られた。	A B C D
8 人材育成 組織運営	・自主的な研究・研修を定期的に行い、それぞれの課題に応じた支援者から学ぶことを通じて授業や学級経営を円滑に進めることができるようにする。	ブロック学年研では学年運営等を通して人材育成を行ってきた。人材の育成のために、ブロック学年研をより充実させる必要がある。	A B C D
小中一貫教育推進ブロック内相互評価結果	研究授業の参観を通して、ブロックテーマである「分かりやすい授業」をめざして取り組んでいることがわかった。児童指導の面では、東部療育センターによるコンサルテーションなどを通して、客観的、専門的な力を得て、特別支援を行っていることがよい。		
学校関係者 評価結果	池上小学校の職員は児童一人ひとりに対して丁寧に対応している。子ども達には落ち着いて学習をする様子が見られた。授業では真面目に取り組む様子が見られたが、これからの児童には自分の考えをしっかりと述べる力が必要で、多様な表現力が求められる。授業等を通して、表現力を磨くことにも取り組んでほしい。		
評価結果に対する 学校の見解	分かりやすい授業を通して、学力向上と自己肯定感を高める取組をさらに進めていく。そのためには、授業公開や研究授業等の機会を生かしながら授業改善に取り組む必要がある。多様な課題をもった児童に対して適切に接し、安心して学習できる環境を備えた学校づくりを進める。		
学校経営 中期目標 達成状況	・ブロックの共通課題に対して、全職員が同じ方向性をもって教育活動を行うことができた。今年度推進してきたキャリア教育や幼保小連携・地域連携のさらなる充実を図ることを通じて自己肯定感を高め学校教育目標の達成へと進めていく。		

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	朝の学習タイムでは、国語・算数の授業と連動させた読み書き計算をブロック学年研等で検討しながら計画的に進める。	学習のルールを明確にし、落ち着いた雰囲気の中で学習できるように実践した。身に付けさせたい力を明確にした授業づくりに取り組んだ。	A B C D
2 豊かな 心	集会の企画を6年生が十分理解し、リーダーとしての自己肯定感に結びつくように事前指導を充実させる。他学年にも事前指導を通して目的を理解させ、多くの友だちと関わる良さを感じられるようにする。	6年生が集会内容をよく理解し、リーダーとして下学年児童に対して、積極的に働きかけることができた。自己肯定感や異学年が交流するよさを感じることができた。	A B C D
3 健やかな 体	毎週火曜日中休みをスマイル外遊びの時間として、ペアクラスを軸にして外遊びに誘い合う環境をつくり、体力の向上をめざす。	運動には取り組んだが、ペアクラスを軸にすることは不十分だった。ドッジボール・マラソンなど運動内容が明確なときには、児童は熱心に取り組んだ。	A B C D
4 特別支援 教育	ブロック学年研を充実させ、個別支援計画等をブロックで共有し、その児童への手立てや変容を客観的に見とり、支援できるようにする。	誰もが見通しをもって学習に取り組める環境づくりを促した。子どもたちに応じた指導ができるように、複数の職員による寄り添い支援や取り出し指導をした。	A B C D
5 児童生徒 指導	教師からの意識付けと連動させ、児童自らが意識を高められるようにするために児童会の年間テーマ等に挨拶運動を組み入れ、年間を通して児童教師が挨拶取り組めるようにする。	児童会であいさつ運動の年間テーマを作成し、気持ちのよいあいさつを身に付けることを目指して、あいさつ運動を行った。	A B C D
6 キャリア 教育	自己肯定感やコミュニケーション能力などの視点を明確にして、教科領域の年間計画を年度始めに作成し、実践する。	計画的に、地域の方から学ぶ学習取り入れ、働くこと、人の役に立つことの大切さを学べるように環境を整えながら、実践をした。	A B C D
7 地域連携	年間計画を立てる時点で、誰とどのようにかわるのかという視点を持ち、よい学校生活実現のために保護者・地域の教育力を生かす	地域コーディネーターと連携して、各学年行事や教育活動へ、地域や保護者の協力者を募り、教育活動を支えていただけるように実践した。	A B C D
8 人材育成 組織運営	ブロック学年研の中で学習・学級経営・児童指導等の課題を話題にし、その中で人材育成をめざす。	ブロック学年研で学級経営・児童指導にかかわる課題を出し合い、お互いに学び合い、授業力・指導力を向上させることができた。	A B C D
小中一貫 教育推進ブロック内相互評価結果	キャリア教育として、スマイル班による縦割り活動が効果的に実践されていることがわかった。特に、学校生活の中にある機会を利用して、無理なく実践されていることがよい。結果として、班の中でお互いの顔が分かる関係になっている。異学年交流を通して、お互いのよさを認め合っている。		
学校関係者 評価結果	学校の目標の中に、「正しい姿勢」が謳われているのが、ユニークだ。正しい姿勢の大切さに気づいたら、正しい姿勢をとれるようにするために、さまざまな角度から議論してほしい。発表時の声が小さく、自信をもって発言できるように育ててほしい。教師の笑顔が子供たちに安心感を与えている。		
評価結果に対する 学校の見解	幼保小連携や地域連携を通して、人とかかわりの中から児童の学びの機会が増え、学びの質が向上してきている。このような本校の強みを生かしながら、学力向上と自己肯定感を高める取り組みを平成28年度以降も継続していく。		
学校経営 中期目標 達成状況	・共通取組や重点取組に対して、計画的に取り組むことができた。キャリア教育や幼保小連携・地域連携を充実させることを通じて、よりよい学びの機会を提供し、自己肯定感を高めながら、学校教育目標の達成へと進めることができた。		

※当該年度の達成状況： A…十分達成 B…概ね達成 C…努力必要 D…改善必要